

2017 年度第 5 回 千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー
「第 3 期認証評価からみた教育・学修支援の在り方」参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 74 名

アンケート提出数： 53 件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・評価における成果・成果外、教育と学修（学習）等を考える機会として有益でした。
- ・学修支援の位置づけの難しさについての土屋先生のお話が興味深かった。
- ・現在の評価システム、これから新しく変わり重視されることなどについてよく理解できた。
- ・学修支援のとらえかた、それをどう評価するのか、ということがわかった。
- ・大学基準協会、日本高等教育評価機構の内部質保証の考え方
- ・「内部質保証」とは何か、どのように評価するのか、といったことが（100%ではありませんが）わかりました。
- ・学修支援の法的な位置づけ
- ・第 3 期認証評価システムの基準について
- ・3 つの認証評価期間の方針と第 1 期、第 2 期、第 3 期のサイクルの違いについて、わかりやすい説明でよく理解できました。
- ・リメディアル教育に対する位置づけ、捉え方の議論は興味深かった。
- ・内部質保証は、学長を中心とした全学的取り組みでなければならないということを改めて認識しました。
- ・「全学的取り組み」という意味が良くわかりました。
- ・認証評価における内部質保証の重要性、ポイントの確認
- ・内部質保証に関する基本的な考え方がよく分かりました。ありがとうございました。
- ・3 機関のポイントの置き方の違いが分かりました。
- ・”内部質保証”という言葉は耳にしていたが、その目的や意義を理解することで、その測定（評価）のもつ意味を再認識することができた。
- ・学修支援には法令の根拠規定がないという事実
- ・内部質保証システムの仕組みの構成の仕方（大学基準協会）
- ・第 3 期の重点項目、評価項目、考え方について
- ・新たな基準がわかりやすく整理されており大変勉強になりました。
- ・それぞれの評価機関の評価基準
- ・内部質保証の定義、特に大学全体としての取り組みという点
- ・大学の質保証をより重視する上で、全学的な取り組みが今後はさらに重要になり、評価ポイントとなることが分かった。
- ・内部質保証における学修支援の重要性
- ・“内部質保証”について、自大学で方針・基準を定め、提示するという点
- ・認証評価がより身近なことであることが（再）確認できた。
- ・第 3 期の大きな変更点がよく理解できました。

(次ページに続く)

- ・リメディアルの扱いについて理解することができました。
 - ・第3期の認証評価の中で学修支援がどのようにあつかわれるかの概要はつかめたと思う。
 - ・3つの認証評価機関でも微妙に立場が違うこと
 - ・学修支援の評価の難しさ
 - ・各評価機関の評価システムの評価の観点
 - ・内部質保証について具体的な説明があったので理解することができた。
 - ・それほどの新発見はありませんでした。
 - ・認証評価委員は千葉大学の教員が多いこと
 - ・内部質保証の考え方がよくわかりました。
 - ・内部質保証の機能化について。プロセスがしっかりしていてもそれがどのように機能しているかが重要だということ。
- (以上原文まま)

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・教育・学修支援というタイトルに解釈の余地があること。また、「Q」に直接お答えになるという形ではなく機関の基準の説明にとどまっていた点。
- ・内部質保証の他大学の考え方（事例）あればですが。
- ・オフィスアワーと設定しても、学生の授業時間で来られない場合が多い。時間設定は形骸化ではないか。
- ・内部質保証システムの確立、実施が必要であることは分かるが、実際にどのような事例がありどのような点が有用なのかということ。
- ・学修成果の評価の方法とその適切性
- ・学修成果の説明・評価について共通して「大学の責任において説明・証明・評価とされていますが、評価を受ける側の大学からすれば、仮に責任をもって説明に行っても、後出しで不十分と評価される構造であり大変不相当と考えます。大学の責任を主張される以上、評価機関の責任として評価プロセスの数値化、見える化（公開）など、今以上の適切な取り組みが必要と存じます。
- ・具体例が示されるとなお良かった。
- ・「学修」が「学習」とどう同じで、どう異なるかを再確認する必要あり。「学修」を知らない職員が身近に。
- ・教育・学修支援の「在り方」という点について、もう少し情報が欲しかったです。
- ・優れた点（取組み）をしている大学のインセンティブ
- ・学修（習）支援と学生支援の区別は土屋先生のおっしゃるとおり必要になっていると思われませんが、それが認証機関においてそれほど共有されていないところは疑問に感じたところです。
- ・大学ごとの認証ですが、領域によってかなり内部質保証のあり方が異なるのではないかと思います。総合大学、単科大学、大学の特徴による内部質保証のシステムの側をもう少し知りたいと思いました。→質疑応答で、大学全体と各学部の取り組みの関係、それ自体が内部質保証であることなど、よくわかりました。

(以上原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・学修支援が様々な組織、場面で行われていて、それが、全学的に把握されていないことが大規模大学ではありそうで、それらの活動を集約すると効果が上がるように思われる。
 - ・認証評価をクリアするためでなく、学生の満足度向上を目指すという意識が重要だと感じています。
 - ・“目的は、学生の教育の充実、学習効果の向上”であることが置き去りになり、評価のための取り組みになっていないだろうか、と感じることがある。よい取り組みについては積極的に取り入れ、あまりに“独自性”ばかりを重視しなくてもよいのではと思う。(目的が達成できるのであれば)
 - ・学修支援の必要性の理解、とくに経営側、組織・予算について
 - ・(能力について) 基本的には、自身の学生時代にもどれること、実質的には、現時点との相違をも考え合わせる
 - ・リメディアルも入学前、入学後もあり中身もバラバラであるものをどう評価できるのか。教員の質が問われると思う。
 - ・この問題の困難性は、大学そのものをどのように考えていくかに関わることと感じており、このスペースでは語りえないところです。
- (以上原文まま)

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・第3期認証評価を行う三機関の考え方を聞いて大変良かった。
- ・学修成果の測定に関するセミナーを希望します。
- ・評価、IR、計画推進等の分野でセミナーの開催があれば、また参加させていただきたく思います 本日は、ありがとうございました。
- ・伊藤先生の10枚目のスライド「2-4 学生サービス」のところで、「独自の奨学金制度」が評価対象になっていることを本日のセミナーで知ったので大変勉強になりました。
- ・2018年度から2つの認証機関の第3期評価が始まるが、実施状況(ポイント、実際の指摘事項の事例等)、可能な範囲で早目に開示していただくと助かります。
- ・新基準が始まったら、評価事例に関するセミナーを開催していただくと大変有り難く思います。
- ・3人連続で話を聞くのは大変なので、休憩時間があると嬉しい。3人終わってから一人目の人への質問はなかなか考えづらい。一人終わるたびに質問を受ければよかったですのでは?
- ・IRや数値化についての言及がなかったのは意外でした。(JIHEEからは調査・アンケートについて言及いただきましたが) と考える必要があると感じました。
- ・教育・学修支援の根拠を大学としてどこに持つのかをきちんと考える必要があると感じました。「大学の責任で説明」に含まれているかということかと思いますが、明示してもよいように思いました。
- ・3機関が比較できて興味深かったです。
- ・学習支援に特化したものだと思っていましたが、一部接していただけでした。
- ・今後も情報提供をお願いします。
- ・徐々にキャンパスに来て、いつもながらの平面的な歩きやすさを実感しました。
- ・3機関の違いをもう少しわかりやすくしてほしい。

(次ページに続く)

- ・有意義な時間をありがとうございました。少し時間が短く感じました。
 - ・素晴らしい企画をありがとうございました。もっと時間を多くとって頂ければより充実した内容になったかと感じました。
- (以上原文まま)

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a.千葉大学以外の方 41名 b.千葉大学の方 12名
(2) a.学生 1名 b.教員 11名 c.大学職員(図書館職員を除く) 28名 d.図書館職員 4名
e. 出版関係 1名 f.その他 7名 (回答なし 1名)

6. セミナーを何で知りましたか？

- a.Web(アカデミック・リンク・センター) 5名 b.Web(図書館) 0名 c.Web(千葉大学) 0名
d.図書館内電子掲示 0名 e.ポスター 2名 f.センターからのメール 18名 g. Facebook・Twitter 0名
h. ASAGAO メールングリスト 26名 i.その他 4名 (Web 検索、部内回覧など) (複数回答あり)

7. 学外(千葉大学外)の方にお伺いします。次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

- (1) 参加の経緯: a.所属機関からの推薦・業務命令 6名 b.自身の希望 34名 (記載なし 1名)
(2) 旅費の負担: a.所属機関負担 30名 b.自己負担 8名 c.その他 0名 (記載なし 3名)

8. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前：() 所属：()
電子メールアドレス： 申込時に利用したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※12名が新規に継続的な情報提供を希望